

# いしづち

2021.3

MARCH

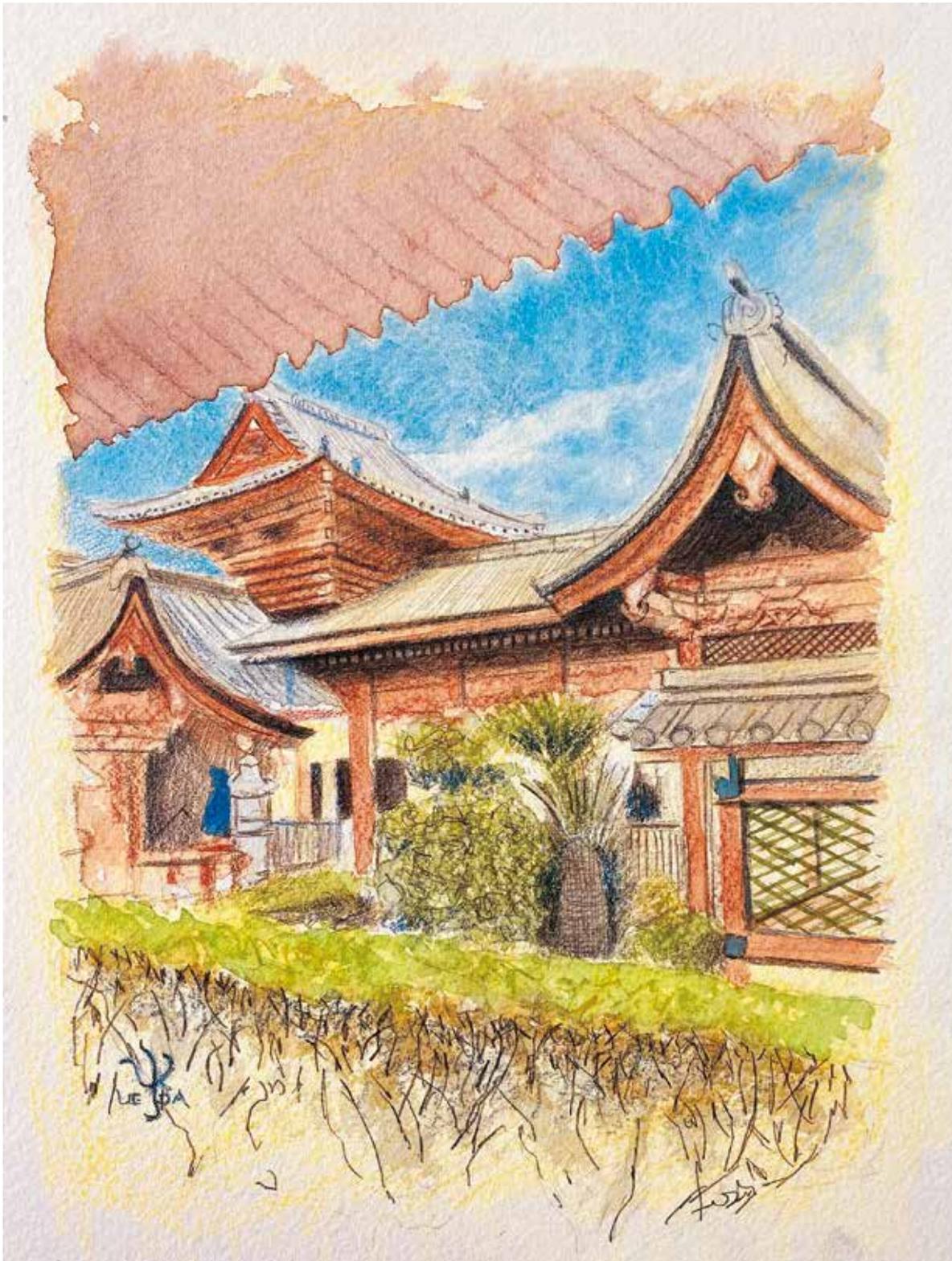
No.139



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

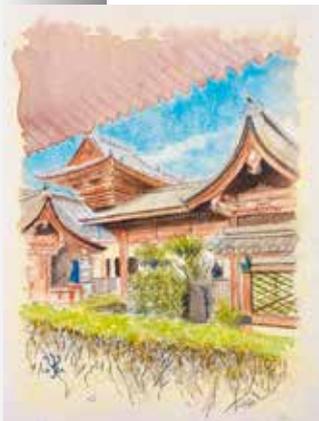
<http://www.ehime-shikai.com>



世界建築紀行 フアンズワース邸訪問の旅  
スマホで撮る 建築写真 最終回 これまでのおさらいと補足  
委員会報告

1	世界建築紀行	ファンズワース邸訪問の旅	西予支部 松山 清……①
2	スマホで撮る 建築写真	最終回 これまでのおさらいと補足	中村写真事務所 中村 誠二……⑦
3	委員会報告	文化財・まちづくり委員会より 来年度の活動について 文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和……⑨ 文化財・まちづくり委員会だより 副委員長 久保 孝……⑨ 女性委員会主催「中予セルフ見学会」開催報告 女性委員会 副委員長 永井 由起……⑩	
4	支部報告	今治支部 活動報告	今治支部長 森 昇平……⑪
5	けんちくの輪	振り返ってみれば 建築士になるまで	今治支部 越智 通雄……⑫ 松山支部 辻川晃太郎……⑬
6	お知らせ	令和3年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について 第5回理事会概要報告	事務局……⑭ 事務局……⑮

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



### 水彩画

題：「伊佐爾波神社(重要文化財)」

[表紙画について]

(松山市)

伊佐爾波神社は、中世には河野一族の湯月城鎮守として機能していた。

現在の社殿は、寛文4年(1664年)から3年の歳月を費やした。

社殿の配置は、正面の楼門とこれに接続する回廊があり、中心線に楼門に続いて

廊下・申殿・本殿と配列される。

奥の本殿は「八幡造り」の建物で、後殿に三間社切妻造の、前殿に同じく三間社流造の2棟を前後に並べ、両者の出合った軒先に共通の檼を架けた作りとなっている。(松山市ホームページより)

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライブフラワー」收藏される
- 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載  
絵画教室やオリジナルブランド額工房「櫛リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版  
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
現在、現代日本美術会 会員/審査員

## ■今こそ見たい “ファンズワース邸”

20世紀の巨匠ミース・ファン・デル・ローエがアメリカに残した唯一の住宅「ファンズワース邸」は、広大な森の中をゆったりと流れるフォックス川の畔に、白い鉄骨フレームとガラスの外壁を纏って、静かに佇んでいた。森の広葉樹は落葉前の黄葉が美しく、四季の彩りを感じながらビジターハウスから長く続く静かな小道をしばらく歩いて行ったところに、突然と姿を現した。「やっとファンズワース邸に会えた」という気持ちと、「本当にファンズワース邸があったんだ」という不思議な気持ちが交錯し、ミースの目指したモダニズム建築の原点が目の前に歴史という時間を越えて存在していた。

## Ludwig Mies van der Rohe Chronologie

1886	ドイツ アーヘンに誕生
1906	ブルーノ・パウルの事務所に勤務
1907	最初の作品「リール邸」を手掛ける
1912	独立して事務所を開設
1913	アダ・ブルーンと結婚
1927	シュトゥットガルト住宅展参加
1929	バルセロナパヴィリオン建設
1930	バウハウス第3代校長就任
1938	シカゴアーサー大学(現イリノイ工科大学)建築学科主任教授就任
1959	プール・ル・メリット勲章・RIBAゴールドメダル
1960	AIAゴールドメダル
1963	大統領自由勲章
1969	83歳没



▲ファンズワース邸 南面ファサード



## Chicago

2015年にバルセロナを訪れたとき、1929年のバルセロナ万博で建設されたドイツ館が、モダニズム空間を実現したミース記念館として同じ場所に復元されていた。この建物を一目見たときの印象は、ミースが目指す「時代のモニュメント」の住宅のようで、“Less is more.”（より少ないことに価値がある）という言葉を実現したそのものであり、ファンズワース邸のことが頭の中に蘇った。また、ミースはナチスに弾圧されバウハウスを閉鎖して、1937年にアメリカに亡命したという生涯に思いを馳せると、近代建築の起点であるこのファンズワース邸も、一度見てみたいと思った。

## 2 ファンズワース邸への道程

ファンズワース邸はシカゴの郊外にあり、交通が不便なこともありなかなか簡単にいくことはできない。シカゴ建築財団のツアーがあったが、日程が決まっていたとしても、そんなに頻繁ではなかった。最寄りの駅もないようだ。あるにはあるが、列車の本数が少なかったり、そこからタクシーが殆ど捕まらないらしく、公共交通機関利用は絶望的。そこで、レンタカーを使うことにして国際免許を取りシカゴ国際空港で小型の日本車を手配した。ナビは別料金込みで1日借りて1万4千円くらい。

出発日が近づいてさらにファンズワース邸までのルートとハイウェイの乗り換えなどを調べていくと、どうも自分が思っているほど運転は容易なものではなく、習慣が違う国で初めてのドライビングが心配になってきた。ここは安全を最優先してガイド兼ドライバーを捜すことにした。旅サイトで募集をかけると5,6人応募してくれたので、貿易の仕事をしているという人をお願いした。そうすると、現地のいろいろな情報も聞けて楽しいし、便利。是非とも行きたかった、ミースの建築が集中するイリノイ工科大学キャンパスとレークショア・ドライブ・アパートメントへも行くことができる。

シカゴオヘア国際空港に到着して、ターミナル5から出て行くと、ガイドさんが待っていた。彼曰く、日本の車では、シカゴを走るのには小さすぎる、らしい。ナビはスマホで対応できるから、予約をキャンセルして、車を大きくすることを勧められた。ガイドが言うので拒否もできず、結局BMWの過大な車となったが、ナビ代でその差額を補うことができた。日本のETCのような装置がついているがハイウェイには料金所のような所はなく、道路上に通信装置があつて知らぬ間に課金されていて、あとでクレジットカードに請求が来ていた。

シカゴは五大湖の一つミシガン湖の南端近くにあるアメリカ第3の都市で、シカゴオヘア空港はかつては世界一の乗降客があり、8本の滑走路を有する。日本からの飛行機はターミナル5に到着し、ターミナル1から出発するという日本とは違ったシステムになっていた。到着して乗客を降ろすと、飛行機は牽引されて出発ターミナルへと連れて行かれるので、たくさんの飛行機が空港内を移動しているのが意外な風景だった。

シカゴへは朝日本から到着したが、ファンズワース邸の見学時間は午後2時半からだったので、それまでシカゴ市内のミースの作品を見学して時間を調整した。



### ③ユニバーサル・スペースのモダニズム空間



▲木立の間から近づく ▼玄関テラス



ファンズワース邸は現在地元のナショナルトラストが所有しており、定期的に催されるガイド付きツアーで見学することができる。ツアーには事前申込が必要で、ファンズワース・ハウスのHPから午後2時半のツアーを予約した。写真撮影をする場合、オプションの追加が必要。出発時刻が近づくと見学希望者がビジターハウスに集まってきた。1回のツアーは10名程度で、ナショナルトラストの英語のガイドが付く。今回は私のガイドもファンズワース邸を一緒に見学したいと同行したので、解説を通訳してもらいながら見る事ができた。

ミース作品に触れることができるという高揚感を感じながら、テラスから玄関へと上がって行く。テラスにはトラパーチンが敷かれていてちょっと驚いたが、ピロティ

から続く室内もすべて床は同じトラパーチンが続いていた。しかも、室内床はこの当時から床暖房が施してあった。

玄関は天井までのアルミ枠の両開きガラス扉で、玄関に立つと室内の様子がベッドエリア以外殆ど見渡すことができた。玄関から見て左がダイニングで右がリビングとして配置されていて、ダイニングテーブルの奥にはシステムキッチンがある、所謂裏側のエリアに行くことができる。キッチンは中央部にあるコアにへばり付いているような感じで、その背面はガラスとなっていた。



▲天井までの玄関ドア



▲室内から見た玄関



# Fansworth House

◀リビングエリア全景



▲ベッドルーム



▲システムキッチン



▲木立と川面を望むリビング

つまり、長方形のガラスの箱の真ん中に、四角いコアを作って、その周りにベッドや家具をシンプルに配置し、コアの中には二つのバスルームと機械室がある構成。その配置を変えれば用途の変更もフレキシブルであり、建築の可能性も高次元のものとなるように思われた。ミースの言う「ユニバーサル・スペース」はそのようなものと理解した。

ビジターハウスの売店に1977初版のGAディテールが販売されており、日本語と英語の併記版だった。日本で購入しても良いかとは思ったが、やはりここで買うことの意味が大きいだろうと考え、ちょっと高いが思い切って購入した。「ディテールには神が宿る」という言葉をミースは残したが、緻密に設計された詳細図をめくっていると、その意味が次第にわかってきた。

ビジターセンターに隣接して丸い平面形状のファンズワース・ギャラリーが併設されていて、帰りに立ち寄った。そこには、ミースのエスキスや建物模型・スケッチなど建築設計をする際に残した資料が展示してある。建物のデザインをするときのアプローチを物語るものであったが、そのような足跡と手段が今の建築を学ぶものにまで継承されているようで、やっぱりミースは「近代建築の父」だという意味にも同感した。

▼外から見たリビング



▲ファンズワース・ギャラリー



#### 4 ミース建築を巡る

レイクショア・ドライブ・アパートメントはファンズワース邸を積み重ねたような高層住宅で、完成が1951年であることから、ファンズワース邸は実験住宅と言われた。1階はピロティ形式で中央部にエントランスとコアがあるのみ。建物周辺も開放的なエリアとなっていて、ピロティ越しにドライブウェイとミシガン湖が広がっていて、とても明るく環境の良い所で、人気の高いアパートメントとなっていた。



▲レイクショア・ドライブ・アパートメント



1階ピロティ部分▶

▼クラウンホール (1956)



▲創作活動エリア



▲クラウンホール内部

イリノイ工科大学はミースがドイツから亡命してきて、1938年に教授に招聘され、キャンパスに数多くの建築作品を残したことで有名で、中でもクラウンホールはファンズワース邸を大きくしたようなワンルームのユニバーサル・スペースという概念そのものだった。内部を区切って使うという汎用性のあるデザインで、訪れた時には、左から模型の制作エリア、講義エリア、研究エリアに別れて使われていて、地下部分が図書室やトイレなどのスペースとなっていた。建築を学ぶ学生がそこで自由にのびのびと創作活動をする空気を感じた。

# Chicago Architecture

その他、アルムナイ記念ホールをはじめ、数多くのミースのモダニズム建築が並んでいて、まるで美術館のようで、そこには建築の歴史の起点があった。



アルムナイ記念ホール▶

## 5 ミースとシカゴ建築

シカゴは“摩天楼発祥の地”と言われて、1871年の大火事をきっかけに高層ビルが盛んに建てられるようになり、近代建築の宝庫となった。一時期、世界一の高さを誇ったシアーズタワーはその名をウィリスタワーと変えたが、それ以外にも魅力ある建築が予想以上にたくさんあった。それでもやはりミースの残した作品は40以上あり、シカゴの建築史の中で輝いていた。その背景には、バウハウスで学んだシカゴの建築家たちの支援があったことも忘れてはなるまい。



▲ビーンズ

▼シアーズタワー



みなさんこんにちは！

この連載が始まってはや一年。本号で最終回となってしまいました。

今回はこれまでのおさらいと補足、私がスマホで撮影した写真をご紹介します。

まずスマホはiPhoneが超広角レンズ付きなので建築撮影にはいいと思います。

私はiPhone11 Pro Maxですが今なら12ですね。12は更に色味や立体感などが良くなっているようです。

## EOS5DとiPhoneでほぼ同じ位置から撮影した写真

Canon EOS5D MarkIV TS-E17mm



▲仕事で撮影させていただいた写真

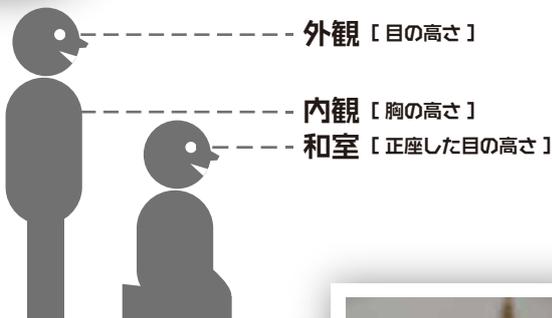
iPhone11 Pro Max



▲ほぼ同じ位置からiPhoneで撮影した写真  
左の写真は17mmの広角レンズですが、それよりも広い画角です。

## 基礎編 BASIC

### カメラを構えたときの基本の高さ



### カメラの構え方

- 両手でしっかりと持つ
- 水平に構える



カメラを構えたときの基本の高さは外観は目の高さ、内観は胸の高さ、和室は正座したときの目の高さです。カメラの構え方は指が写らないように両手でしっかりと持ち、基本的には水平に構えます。

(画角が広いので、ちょっと油断すると指が写ってしまいます) このときにほんの僅かな傾きでも大きく歪みが出てしまいますので、カメラの水平に集中してシャッターを切ります。あと撮影前にはレンズを拭くことも忘れずに。スマホのレンズはほとんどの場合汚れています。小さなレンズは僅かな汚れでも大きく影響してしまいます。

### 撮影前にレンズを拭く

- 僅かな汚れが影響





1年間に渡ってお送りしました本連載もこれにて終了となります。まだお会いしたことのない方も大勢いらっしゃると思いますが、できれば撮影で皆様とお会いできれば大変嬉しく思います。ご覧いただいた皆様、ありがとうございました。

HPはこちら▼



## 応用編 ADVANCED



補正後



補正前

こちらは応用編になります。画面右手前から左奥に向かって斜めに撮った写真を正対するように、左すぼまりの歪を“横方向”で補正しています。右が補正前の写真です。全然違いますよね！？ 建築写真では広告用を除いて正対した写真が求められます。私が仕事で撮影する際は「アオリ」が使える特殊なレンズを使用して一発で撮影しますが、通常のレンズやスマホでは不可能です。しかし斜めで撮影しておいて後で歪み補正することでこれが実現できます。やり方は2020年5月号でお伝えしました上すぼまりを補正する方法と同じで、横向きの台形アイコンをタップしてスライダーで調整するだけです。なお、歪み補正が想定される場合はアプリでの補正時に若干周囲がトリミングされますので、あらかじめ少し広めに撮影されることをおすすめします。

※完成写真は一眼レフと同じ縦横比の3：2でトリミングしています。

### スマホでの撮影事例

撮影はすべてiPhone 11 Pro Max 標準のカメラアプリで撮影後、明るさ・コントラストなどの調整は写真アプリ、歪み補正はSKRWTを使用しています。

どうでしょう？意外ときれいに撮れてるのではないのでしょうか。こちらのお店は引きがなくて撮影条件としては相当厳しかったのですが、超広角レンズによって悪条件を克服できたと思います。



### いかがだったでしょうか？

「スマホでもここまで撮れる」と正直私自身びっくりしています。もちろん一眼レフできっちり撮影した写真とは比べようありませんが、そこまでの写真が必要ではない場合、例えばSNSなどでの使用ならこれでも充分ではないかと思います。

# 文化財・まちづくり委員会より

## 来年度の活動について

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和

7月に初めての委員会を開き、景観部会・街中(空き家)部会・歴史文化財部会・福祉部会・防災部会の5つの部会に分かれ活動することとなりました。あっという間の令和2年で、コロナ禍ということもあり、満足な活動はできませんでしたが、ZOOMを利用したWEB会議を行うという新しい試みにも挑戦でき、様々な可能性を感じる事ができました。

来年度はZOOMを利用し、各部会で会議、勉強会や講師を呼んでのセミナーなどを計画しています。詳細はまたご報告いたしますが、景観部会では皆さんの周りがある景観コンテスト、街中(空き家)部会では私の見つけた文化財(ヘリテージマネージャー卒業課題だったもの)から派生し、作成。今までの物を冊子にまとめてみようと考えています。歴史文化財部会では勉強会やヘリテージマネージャー組織について議論をしてゆき、福祉部会では今後増加していく介護保険を利用した工事の事例報告や設備についての勉強会、防災部会ではコロナ禍における避難生活についてや防災セミナー、ワークショップなどを一般会員に向けて発信できればと考えています。

このような時期ですので、できることは限られていますが、一般会員や賛助会員に向けて面白く、興味のある企画をしていきたいと考えています。また、一カ月に2回、WEBによる会議を行っています。ご興味のある方はぜひご参加ください。皆さんのご意見もいただきながら来年度も努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 文化財・まちづくり委員会だより

文化財・まちづくり委員会 副委員長 久保 孝

文化財・まちづくり委員会は、今まで以上に活発な委員会活動をめざし、昨年7月より建築士会連合会が推進している、まちづくりの分類である、①防災まちづくり部会、②歴史・文化財まちづくり部会、③景観まちづくり部会、④街中(空き家)まちづくり部会、⑤福祉まちづくり部会を設け委員会活動をスタートさせました。コロナ禍の影響もあり、どのように部会活動を進められるか、参加できる委員を対象に月2回のペースで小会議も含めると約20回程度のWEB会議を開催してきました。

毎回多くの委員に参加してもらい開催できていることに感謝し、今後も開催していこうと考えています。

今まで東中南予の委員の方が実際に集まっての会議となると、貴重な時間を割いてのことでした。WEB会議であれば、各委員の方の負担が少なくすみ、画期的な会議の運営方法だと感じています。このスタイルは、各分野において今後定着するものと思います。

昨年7月号の「いしづち」で峰岡委員長において、5部会の活動案を紹介させていただき、各部会でその案について建築士会としてどのように取り組んでいけるか、それぞれで調べました。現在、令和元年度まで盛んに活動を続けてきた、歴史・文化財まちづくり部会以外の新しい4部会はテーマが広すぎて、片手間にできるような内容ではない事に気づいた状態が正直なところです。しかしながら、そういう状況でも見学会を計画し、2つの見学会予定はコロナの影響で流れてしまいましたが、昨年10月に福祉まちづくり部会で計画した、四国中央市の支援福祉施設の見学会は、有意義なものとなりました。今後、コロナが落ち着くまでは、見学会の開催は難しいものとなると思われますので工夫が必要だろうと考えています。

建築士会連合会から、5部会に対して具体的な活動内容についての提示はなく、各県独自の活動に委ねられています。各部会において、すぐに成果をあげられるようなものではないと思いますので、愛媛県独自に焦らずできることを各部会活動について、全委員でカバーしながら進めていかないといけないと考えています。

それと、平成28年度から3か年にわたって行われた、歴史的建造物保全活用に係る専門家(ヘリテージマネージャー)養成講座受講修了者、ヘリテージマネージャースキルアップ受講者の活動体制が整っていない状態にあると感じています。受講修了者からヘリテージマネージャー同士での意見交換やネットワークづくりを期待する声も聞こえてきており、文化財まちづくり委員会が中心となって進めてきたことなので、受講して終わりということにならないよう、ヘリテージマネージャーが活動しやすい体制づくりも必要だと感じています。

もっともらしいことを書きましたが、全世界がコロナ禍でおかしくなっています。皆さん自分のことで精一杯というのが本音じゃないかと思いますが、もう少しの辛抱ですので、希望を持って日々の生活を送っていただきたいと思っております。(牛のごとく着実に一歩ずつ)

# 女性委員会主催 「中予セルフ見学会」開催報告

女性委員会 副委員長 永井 由起

女性委員会では例年、季節の良い秋頃から新年会までの時期に見学会を行ってきました。しかし、今年度はこの新型コロナウイルス感染症が拡大する中、開催することができるのか検討してまいりました。検討を行った9月下旬から10月頃は愛媛県の感染状況が落ち着いている時期でした。女性委員会の委員長と、担当で協議した結果、参加者の安全を守るため、一度に集まって行う従来の見学会ではなく、マップを作成し解説を見てもらいながら各自で自由に見学する「セルフ見学会」とすることにしました。

見学会コースは物流の拠点であり、老舗のお店も多く、文化的にも高い水準にある三津の街並みとしました。松山市役所が「美しい街並みと賑わい創出事業」という民間による街並み景観整備と賑わい創出施設整備に対して支援を行っており、近年、三津はこの事業を利用して街並み再生が進み、歴史的な民家をリノベーションして資料館、休憩所ができました。続々と新しいお店もオープンしています。この機会にこの事業を利用したのを知って、古くて新しい三津を体験していただきたいと考えました。

担当者3名でそれぞれが下見、写真撮影、地図へのプロット、解説文作成など、メールのやり取りをしながらマップを作成しました。マップを配布するだけでは実際に行ってくださいられないかもしれないということで、実際に見学に行った方から感想を募るとともに、委員会で相談し、プレゼント企画(三津ならではのものを3名様に!)も実施することとなりました。



マップ表紙

マップが完成し、案内を出す11月半ば、愛媛県(特に松山市)で新型コロナウイルスの感染が広がり始めました。当初はfacebook等でも広報をする予定でしたが、感染が広がる中、大々的にアナウンスするのは控えることとしました。見学期間は見学会案内が到着した11月半ばから令和3年1月12日まで、感染対策を万全にした上でのご参加をお願いしました。

感想を寄せてくださった方によれば、

- 三津駅から三津のメインストリート付近を歩いた。
- 歴史ある醤油店が修復を経て現役で稼働しているとこ

ろに賑わいを感じた。

- やはり解説を聞きながら廻りたい。とのことでした。



旧鈴木邸 宿泊・レンタルスペース等利用可 要問合せ

わたしはこの「美しい街並みと賑わい創出事業」の建築分野での外部専門員をここ数年務めています。外部専門員は意見を出せますが、基本的に決定権は市役所にあります。審議する段階では計画も見積りもほぼ決定しており、大きな変更の余地はありません。この事業は「歴史的建造物の保全・改修」を含みますが、当初「歴史的建造物に詳しいものの意見を聞く」ことがされていませんでした(現在は文化財課等に意見を求めることになっています)。勿論、補助金があっても申請者も大きな金銭的負担がありますので、必ずしも理想通りの修復ができるわけではないのは当然のことです。しかし、申請の案件によっては、個人的にはもう少しどうにかならなかったのだろうか、と思うこともありました。

もしかしたら登録有形文化財になり得るかもしれないものをどのように修復、活用するか、建築士として申請者(所有者)と一緒に考えていくことが必要だと思いません。わたし自身、ヘリテージマネージャーを勉強したからこそ、そのように考えるようになりました。結果的に保存できず、解体される建物も増えてきています。

実際に見学会が開催されれば、この辺のお話もさせていただきたかったのですが、また時期をみて実際に皆さんと出かける見学会を開催したいと思っています。

ご参加くださいました会員の皆さん、ありがとうございました。このような大変な中で一緒にマップを作ってくくださった八束さん、今年度から新たに女性委員になってくださった鷺尾さん、ご協力ありがとうございました。

後ほど、建築士会のホームページなどにマップをアップロードしていただこうと思っています。散策の参考にしていただければと思います。

少しでも早く新型コロナウイルスの脅威が去り、通常の日常を取り戻せる日が来ることを願っています。

# 今治支部 活動報告

今治支部 支部長 森 昇平

前回の支部報告(いしづち2020.11No.137掲載)では、今年度の支部活動として住育活動「おかしのみちをつくろう！」とスキルアップ事業「今治地区林材業振興会議が愛媛県産材を使用したCLT普及のために作成するパンフレットに使用する基礎資料の作成」を予定している旨報告いたしました。

クリスマスシーズンに予定しておりました住育活動「おかしのみちをつくろう！」については、人を集め行う行事であるため、全国における新型コロナウイルス感染症感染拡大を鑑み、開催を見送りました。

また、冬場を迎え、新型コロナウイルス感染症の感染も拡大傾向にあるので、今年度の地域貢献活動は中止いたしました。

スキルアップ事業については、前回の支部報告時に以下のことを報告いたしました。

1. 第一回CLT勉強会を開き、今治地区林材業振興会議の担当者より今回の依頼内容について説明を受け、スキルアップ事業として行うことを確認し、今後の手順について話し合ったこと。
2. 第二回CLT勉強会に会員でCLTの特性を活かした簡単なプランを持ち寄り、その中から数案を選び、グループに分かれて基礎資料の作成を行う予定であること。



その後、第二回CLT勉強会を開きプランの選定を行いました。現在は、1月末を目途に各々がプランをまとめる作業をしています。予定では、2月には全体で取りまとめ、3月初旬に今治地区林材業振興会議にパンフレットとして提出する予定です。

CLTを実際に使用したことのない会員の多いなか、この事業を行うことで、CLT造をより身近なものと感じるようになったと思います。2月後半には、越智今治地域「地産地消の家づくり」推進協議会様と令和2年度今治地区CLT建築物設計技術検討会の共催を進めています。

新型コロナウイルス感染症に振り回され、制限されたこの一年の活動でしたが、今までとは違った観点で仕事や活動の仕方を見直す契機にもなりました。願わくば、次年度は新型コロナウイルス感染症も収束し、今治支部が続けてきた住育活動「おかしのみちをつくろう！」を再開するなど、地域の人々や未来を担う子どもたちに建築の仕事を知ってもらうための活動を継続していけるようにしたいと思います。



第一回 CLT 勉強会



第二回 CLT 勉強会

# 振り返ってみれば

今治支部 越智 通雄

西条支部の佐伯敏治さんからバトンを受けました。冊子の1ページをお借りして迄、特に何かを伝えたい志がある程の人物ではありませんので、これを機会に書きながら自分の人生を振り返ってみようと思います。

昭和34年生まれの現在62歳です。両親共稼ぎの家庭に育ち建築関係とは無縁だった私が建築に関わるきっかけは、高校3年の進路選択時にぼんやりと教員を考えていた私に、建築科進学を勧める親戚筋のアドバイスがありました。曰く「建築とは男らしい仕事でかっこいい職業」という内容の勧めを受け、ふわふわとした風船のような志を持った私が進学したのは工学部建築科でした。当時の大学生の大半(?)がそうであったと思いますが、4年間あまり勉強をした記憶はなく、ひたすらアルバイト、麻雀に明け暮れた大学4年間でした。(かろうじて卒業はできました……)

そんな私も縁あって地元の設計事務所に就職となり社会人となりましたが、建築科は卒業しているものの仕事の内容はさっぱりわからないまま出来の悪い社会人生活を数年送ったのち、設計事務所より建築現場経験の必要性を感じた私は工務店へ転職をします。職種は現場監督でした。当時から今治はタオルと造船の町でしたので、タオル及び造船関係の工場建設や改修工事、住宅についてもタオルや造船にかかわる施主さんが多かったと思います。小さな現場を数件与えられた後、公民館や公務員宿舎等公共工事も携わるようになりました。

この頃になると、ある程度自分の判断および監理能力で現場が動くようになり、仕事は面白くやりがいのあるものになりました。設計事務所との打ち合わせに始まり、基礎工事着工から竣工に至るまでの過程において数々の人々との折衝があり、現場の段取りや管理に注意を払いながらも上司に叱責を受ける場面も多々ありました。

失敗談としてよく思い出す事例に、コンクリート打設時の発注ミスがあります。5階建てマンションの最上階打設時の事、打設が終わったにもかかわらず敷地内にミキサー車が5~6台待っていたのです。計算ミスによる発注ミスでした。その後、余ったコンクリートを積載したこのミキサー車がどうなったのかは記憶にありませんが、そそっかしい自分の性格を振り返る時よく思い出すエピソードです。

その他数々の失敗もありましたが、多くの人に関わりながら一つの建物を作り上げていく中で喜びのようなものを当時の私は感じるようになっていました。こうなると少し欲が出てきたのか、1級建築士の免許が目標となっ

てきました。それまでろくに勉強などしたことがなかった私でしたが、初めて試験問題集に取り組むこととなります。私の場合2年かかりましたが、生まれたばかりの子供の寝顔に励まされながら頑張っていたように思います。

合格したのは30歳の時、しばらくして独立し今の事務所を開くこととなります。1990年バブル崩壊年でしたが、有難いことにクライアントにも恵まれ、まだまだ世間に仕事は多く、私のような駆け出しの事務所にもある程度仕事は回ってきました。ですが、独立してから順調に売り上げが伸びるような経過はたどらず、浮き沈みの激しいまるでジェットコースターに乗っているような人生のように感じた32年も、今ではスリルを味わいながら楽しいと感じる自分もいます。

建物に対する考え方は、建築士の免許を取得した頃、建築家で今は亡き宮脇檀という方のエッセイを交えた建築本に出会い、ご自分の人生観を交えた建築関係本が非常に面白く幾冊も読ませて頂きました。クライアントの無茶な要望に対する宮脇氏の対応は非常に面白く共感を覚えたり、玄関から始まりリビングや水回り・寝室・子供室・様々な家族の在り方・建物各種納まりに対する考え方等も奇を銜うわけでもなく、私にとっては面白く今でも読み返し参考にさせていただいています。



私の愛読書

人生も後半に差し掛かり、何時までこの仕事に関わることができるのかわかりませんが、できればこのままこの仕事に携わることができるよう健康にも気を付けて臨みたいと思います。

今回は私の高校と大学の同期で今治支部の新居田明夫さんです。明夫君、宜しく！ まだまだコロナで騒がしいですが、建築士会の皆様も健康に気を付けて頑張りましょう。

# 建築士になるまで

松山支部 辻川 晃太郎

昨年末に、大一合板商事の大久保社長よりバトンを頂きました。いつかは、このバトンが回ってくるだろうと思いつつ、心構えはしていたものの、いざ回ってくると何を書いたらいいのかと迷っております。どうしたものかと考えながら、過去のいしづちを読んでおると、生い立ちを書かれている方が多く見られたので、僕も生い立ちを書いてみようかなと思います。

平成元年6月、砥部町に僕は生まれました。父は浄化槽の工事会社を経営しており、子どもの頃、父の運転する軽トラの隣に乗り、工事現場についていったのを覚えています。また、家には当たり前のように電動工具があり、父が現場から持って帰ってきた端材を使い、椅子を作ったり、テーブルを作ったりと、ものづくりとの距離は近かったように思います。こういった生活が、建築に興味を持つきっかけだったのかもしれませんが、しかしながら、幼少期の僕はジャッキー・チェンが好きで、将来の夢は「空手家」になることでした(笑)。

このまま、ものづくりとの距離が近づき、建築士を志すのかと思いきや、小学校に入り、友達とゲームで遊ぶことが増え、父の現場についていくことは少なくなりました。そんな小学生時代の将来の夢は、「ゲームデザイナー」でした。この頃、建築への興味は完全になくなっていました(笑)。

しかし、そんな僕が、再び建築に大きく興味を持つきっかけになったのは、中学3年生のときの美術の授業でした。その時の美術の課題は、「自分の理想の部屋をパースで描く」ことでした。自分の思い描く理想の部屋を考えることがすごく楽しかったことを覚えています。この出来事をきっかけに、建築へ再び興味を持つ事となりました。

高校時代もその夢を忘れることなく、より専門的な勉強をするために大学→大学院へ進学しました。学生時代には、アトリエ系の設計事務所、大手設計事務所に、インターンとして企業研修を受けました。アトリエ系設計事務所では、給料が安すぎる現実を、大手設計事務所では、デザイン・設計・構造・設備それぞれの部署が一つの物件にチームで取り組んでいることを学びました。

それらの経験を踏まえて、自分が将来どうなりたいかを考えたとき、デザインから設計まですべてを扱うことのできる住宅設計をし、愛媛県で設計事務所を開きたいと思うようになりました。卒業後は、県内の住宅設計事務所に勤めておりました。勤め始めて3年が経った頃、父が腰を痛めて、浄化槽の蓋が開けられなくなり、父の

経営する関西住機株式会社に跡継ぎとして戻ることになり、今に至ります。

今の主な仕事は、浄化槽、ろ過機の保守点検、及びそれらの工事の設計・施工管理の業務をしています。父の会社に戻り、父の仕事がなんとなくわかり始めた頃、住宅会社に勤めていた経験を活かし、一般住宅の水回りのリフォームを新規事業として取り組みはじめました。今では、建築士会で生まれた縁のおかげで、興居島で住宅リフォームをしています。



浄化槽

建築士会には、父の会社に入社してから、入会しました。当初は、知り合いもおらず、新しい出会いを求めて、みんなの輪に飛び込んでいきました。士会には、すごく優しく、素敵な先輩方がたくさんおられまして、そんな先輩方のおかげで、自然と輪の中に入っていくことができました。そして、ここで生まれた縁が建築士会にだけとどまることなく、仕事にもプライベートにもつながっていったことがとてもうれしく思います。

昨年より、コロナウイルスの影響もあり、皆様と顔を合わす機会が少なくなってしまう、大変寂しく思っております。また当たり前のように集まることができるようになることを望んでおります。

最後になりますが、ここまで、読んでいただきありがとうございます。



興居島で飲むコーヒー

# 令和3年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について

## 令和3年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について 〔建築士会は、まちづくり活動を支援します〕

公益社団法人愛媛県建築士会は、会員の皆さんが地域のの人々と共に行う社会貢献事業や建築士会の内部組織（研究会等）が実施する地域貢献活動としての事業を応援します。

すでに活動をしている方も、これから何か始めようという方も、一定の条件を満たせば事業に助成金を活用することができます。

### 1. 助成の対象事業の内容

会員が参画する以下のテーマに沿った営利を目的としない地域貢献活動が対象です。

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| (1) 地域のまちづくり         | (2) 景観の保全   |
| (3) 居住環境の保全・整備       |             |
| (4) 自然環境の保全・整備       | (5) 福祉環境の整備 |
| (6) 地域住宅づくり          | (7) 地域防災づくり |
| (8) 歴史的遺産の再生と活用      |             |
| (9) その他、地域活性化、社会サービス |             |

### 2. 助成の対象

- 建築士会会員が参画する地域貢献活動に対する活動助成
- 国、地方公共団体から、建築士会に対しての委託事業、人材派遣に関連して進められる地域貢献活動に対する活動助成
- 地域貢献団体助成事業運営委員会が助成を必要と認めた地域貢献活動に対する活動助成

### 3. 助成金

- 1件当たり限度額50万円とし、助成率は事業活動費の3分の2とします。  
(継続的事業の場合は3年を限度とします)

### 4. 応募手続き

- ①助成申請者は

- 申請時に組織内に建築士会会員として継続して在籍が3年以上の者が複数参画している活動団体の代表者
  - 建築士会の内部組織（研究会等）の代表者で上記2の助成事業を行おうとする者。
- ②助成申請書は規定の申請書により申請してください。  
(申請書はHPからダウンロードできます)

<http://www.ehime-shikai.com/other/6734.html>

### 5. 応募期間

令和3年4月1日～5月31日まで（事前問い合わせは随時受け付けます。）

※応募期間前であっても、仮受付をしますので、お申し出ください。

### 6. 助成対象事業の決定と助成金交付等について

- 助成対象事業の趣旨に沿った事業かどうかを基準に「愛媛県建築士会地域貢献団体助成事業運営委員会」が審査します。助成額の決定は、申請書受理後60日以内に書面にて通知します。
- 事業の実施期間は、助成額決定日から令和4年3月31日の間に実施される活動を基本とします。
- 助成金は、交付申請者に対して、助成金交付決定通知後の助成金請求に基づき交付します。
- 交付申請者には、活動の内容・助成金の管理・報告書の提出に責任を持っていただきます。

### 7. 助成事業一覧について（事例）

年度	事業名		助成額	備考
2017年度	松山市	建築士による木造住宅の耐震化を促進する会	10万円	1年目
2018年度	松山市	建築士による木造住宅の耐震化を促進する会	20万円	2年目
	松山市	女性と防災の会	5万円	1年目
2019年度	松山市	建築士による木造住宅の耐震化を促進する会	20万円	3年目
	松山市	女性と防災の会	8万円	2年目

提出及び問合せ先：公益社団法人愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町4-1-5 建築士会館2階

TEL：089-945-6100 FAX：089-948-0061 E-mail：lee04603@nifty.ne.jp

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

### 「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和3年 5月号 (140号) 令和3年3月25日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

FAX 089-948-0061

## 編集後記

「新型コロナウイルスが未だに終息する気配がない。感染防止の観点からWEB会議の必要性を感じている」というお話をよく聞きます。また、(公社)愛媛県建築士会の理事会においても、情報委員会主催で講習会ができないかと要望がありました。

そこで、2021年度では、初心者向けのWEB会議の導入に向けた講習会を行いたいと考えています。内容としては、①WEB会議に必要な準備機器、②Zoomを例にWEB会議の実施方法、などです。

出来ないことばかりを考えてしまう世の中ですが、今できる事を見つめなおして新たなツールを手に入れるのも良いものです。

### 〈いしづち〉2021/3

令和3年3月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/赤松 慶隆 門屋 広一 成松弘之助 西森 勉 花岡 晶子